

1 プロジェクトの趣旨

本プロジェクトは、2010 年の東北新幹線新青森駅開業、県内縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す運動を踏まえ、三内丸山遺跡と県立美術館が一体的な魅力ある芸術・文化・観光の拠点であることを強くアピールするとともに、県外客の誘客促進及び県民に広く美術に親しみ参加する機会を提供することを目的としている。

今回、「2000 年後から見た現代」をテーマに制作活動を続けている美術作家の柴川敏之氏を招き、県立美術館と三内丸山遺跡一帯を「41 世紀の美術館と遺跡」に見立てて、柴川氏の作品と三内丸山遺跡出土品とを関連づけた展示やワークショップ等を中心にプロジェクトを展開する。この歴史(三内丸山遺跡)とアート(美術館)のコラボレーションによって、美術館と遺跡の一体的イメージの強化を図るとともに、縄文時代から現代、そして未来へとつながる歴史の重層性や奥深さを実感し、2000 年後の未来の視点から現代の暮らし方を見つめることで、未来へ向けて今どうあるべきかというメッセージを伝える機会としたい。

2 名称

柴川敏之 | 2000 年後の未来遺跡 | 三内まるごとミュージアム | 2000 年後の青森県立美術館 ~ 三内丸山遺跡

3 会期

平成 20 年 9 月 23 日(火・祝) ~ 12 月 24 日(水) (秋のコレクション展と同時開催)

4 会場

県立美術館、三内丸山遺跡(縄文時遊館、三内丸山遺跡展示室)

5 主催

青森県立美術館

6 招へい作家

柴川敏之(美術作家/福山市立女子短期大学准教授、広島県福山市在住)

「2000 年後から見た現代」をテーマに、ミュージアムやギャラリーをはじめ、町の商店街や酒蔵での、地域や場所にこだわった展覧会を精力的に行っている。また同時に、ワークショップを通して、ものの存在や現代の諸問題について、見つめ考え直す作業を続けている。

7 主な内容

1) 展示

美術館地下 2 階チケット売り場に、2000 年後の発掘現場(ストーンサークル)をイメージした柴川作品を設置し、ここから出土した遺物が 41 世紀の美術館と遺跡全体にちらばっているというコンセプトで構成。遺物は、現代の日用品を 2000 年後の出土品に見立てて制作された柴川作品。美術館、縄文時遊館及び三内丸山遺跡展示室の 3 ヶ所において、縄文遺物やコレクション展展示作品等とともに置かれた柴川作品は、観客に 2000 年後の美術館と遺跡を想像させる呼び水の役割を担う。

2) ワークショップ、イベント等

公開制作、アーティスト・トーク、ワークショップやその成果品の展示など、幅広い人々が本プロジェクトに親しみ楽しむ多様な参加型イベントを、期間中に継続して実施する。また、ワークショップの運営等にボランティアスタッフを活用することで、県民の芸術文化に親しむ機会を拡大する。

3) その他

ワークシートを兼ねたクイズ付きノボリ作品(100~150 本)の三内丸山遺跡内園路沿いへの設置、シャトルバスの活用など、回遊や誘客に有効な仕掛けを講じる。